

IMへの途



山梨第1グループ2024-2025年度ガバナー補佐 渡邊 隆

国際ロータリー第2620地区 山梨第1グループ

INTERCITY MEETING

2024-2025年度

報告

「10年後のロータリー」

基調講演

「日本の安全保障と防衛大学校 ～10年後の世界」

講師 前防衛大学校校長 慶應義塾大学名誉教授 國分 良成 氏

懇親会

歌唱パフォーマンス 山梨県立甲府第一高等学校 ア・カペラ部

日時 2025年2月1日(土)
13:30～18:00

会場 ベルクラシック甲府



ホストクラブ 甲府ロータリークラブ

ガバナー補佐 渡邊 隆
IM実行委員長 雨宮 俊彦



10年後のロータリー



山梨第1グループ
ガバナー補佐
渡邊 隆

国際ロータリー第2620地区・山梨第1グループ開催のインターシティーミーティングにご出席いただき有難うございます。

「山梨第1グループ」は星野善忠ガバナー年度に発足し、富士吉田RC・宮下節夫ガバナー補佐年度から7クラブ（甲府・富士吉田・大月・都留・河口湖・富士吉田西・山中湖）輪番制でガバナー補佐を輩出しています。グループ合同での社会奉仕事業やグローバル補助金を受けながら、国際奉仕事業を積極的に

取り組み、また、会員相互の親睦活動を進めています。

「山梨第1グループ」は7年で一巡いたしますが、残念ながら2019～21年はコロナウイルス感染によりIM開催中止や、オンラインによる県内合同開催などがありましたが、2023年度からは通常開催となり、大勢の会員のご協力の下で、今年度を迎えることが出来ました。

しかし、IM開催が一巡する中で、コロナウイルス感染の影響で、ロータリー活動も一変しました。一堂に会さずオンラインによって物事が進められる社会が出来つつあります。

ロータリーは社会の変化と共に、若者の考えを吸収しながら、将来を目指すなど「10年後のロータリー」また「10年後の世界」を想像してみませんか。

ロータリークラブの10年後



1. デジタル化の進展

オンライン活動の増加

2. 会員層の多様化

性別や国籍、職業の多様性を尊重した運営

3. 持続可能性への取り組み

環境問題への注力

4. 地域とグローバルの融合

グローバル補助金を使った事業

グローバルネットワークの強化

5. 財源と資金調達

ロータリー財源の拡大

6. 教育とリーダーシップの育成

教育とリーダーシップの育成

ロータリーへの夢



プログラム

13:00 受付・登録

式典

13:30 開会点鐘

13:49 「10年後のロータリー」について
各クラブの計画・報告

14:30 閉会点鐘

休憩

基調講演

14:40 講師紹介

14:45 講演（1:30）
「日本の安全保障と防衛大学校～10年後の世界」

16:27 休憩（3Fへ移動）

懇親会

16:45 開会のことば
余興・甲府一高アカペラ部 歌唱パフォーマンス

17:40 次期ガバナー補佐紹介・次期ホストクラブ紹介

18:00 終了予定

富士吉田ロータリークラブ

会長 大谷 和伸



・会員増強について・・・渡邊隆ガバナー補佐が甲府ロータリークラブを分析されたのを参考に、当クラブの現在の年齢構成を分析させていただきました。30代1名、40代10名、50代17名、60代10名、70代10名、80代4名、90代3名 平均年齢62歳。50代が一番多いものの、全ての世代に満遍なく会員が在籍いただいています。ただ、このまま何もしないと10年後は平均年齢が72歳になることは明らかです。

当クラブもおかげさまで63年続いているので、パスト会長、幹事経験者の比率も高くなってきていますので、まずは、若い30代、40代の方にお声かけしていきます。さらに例えば、次年度遠山喜一郎会長エレクト、次年度渡辺平一郎会員など、60代後半で入会されてご活躍され、会長をしてくださる例もあるので、全ての世代にお声かけをしていきます。具体的には、地元にも古くから根付いている企業はもちろん、最近増えてきている、首都圏から移住されてきた方をお誘いするのも良いと思います。

・女性比率・・・現在3名会員が在籍しています。女性が入ると雰囲気もとても明るくなり、男性とは違った視点での意見をいただけるので、とても活性化しています。10年後に向けて一年に1人の目標で10名以上の女性会員を目標としたいと思います。

・奉仕事業について・・・すでに、富士学苑高校インターアクトクラブへの支援や、富士吉田商工会議所の永年勤続表彰への参画、富士吉田商工会議所青年部とコラボしてポリオの募金活動、インターアクトと昭和大学とコラボしての清掃例会など、継続して良い事を行っているため、是非続けていただきたいと思います。

それに加えて、地区補助金の活用を推進して、昨年は富士吉田市の子育て支援センターに遊具や必要機器の贈呈、今年是不登校の生徒を支援するフリースクールへの機器や修学旅行の支援などを行っています。今後も地区補助金を活用して、地域にとって役に立つ、良い事をしていくと共に、良い事業があれば継続して行って、富士吉田ロータリーの看板事業となるような事業を構築していければ良いと考えます。

最後になりますが、今年のIMも、昨年に引き続き國分良成さんという大変著名で第一線で活躍されている講師を呼んでいただきました。今後もIMやクラブの周年事業で、著名な講師を呼んだ時には、会員以外にも一般公開して、多くの方に聴いていただくことで、公共イメージの向上、会員の増強に繋げるのも良いのではないかと思います。以上です。ご清聴ありがとうございました。

大月ロータリークラブ

会長 鈴木 龍子



大月RC会長の鈴木龍子と申します。

私どものクラブは、現在会員数17名、そのうち毎年4～5人が地区役員を兼任して、会員の一人一人が重要な役割を担っています。

10年後もしっかりと地域に根差した奉仕をしていくためには、きちんと道筋を立てて未来を語っていくこと、そして活動内容を可視化することが大切です。妄想や想像をめぐらすことは得意ですが、そうは言ってもそれが単なる夢物語にならないように、私は未来の目標をいつも未来完了形で語っています。この場では10年たったと仮定して、10年後の大月RCの未来予想図を未来完了形で語りたいと思います。

2035年、10年前（2025年）から始めたクラブの冠となる「子どもまん中イベント」がその3年後には地域で定着し、今ではクラブの文化となるまで知名度と存在感を育むようになりました。

小さいクラブの最大の利点は身動きが柔軟に取れること、意思決定が早く浸透しやすいことだと考えています。10年前の2025年に甲斐RCが主導して笛吹RCと共同でグローバル補助金を使いインドネシアの助産院に医療機器を贈呈するプロジェクトに協賛することを足掛

かりに3年後は私たちのクラブが主導して他クラブを巻き込みグローバル補助金制度を使ってしまいクラブとなったタイのナワラRCに海外支援を行うことができました。・・・と、こんな風に10年後のクラブの姿を言い切ってしまったのであとは実行するしかありません。

なぜ私がこのように自信をもって語ることができるのか？それは私が今までしてきた大小含め様々な提案に一度も先輩方に反対されたことがなく、「いいよ、いいよ。やってごらん」「よきに計らえ」と背中を押してくださるからなんです。

経験も知識もない後輩を信じて任せるのはとても勇気のいることです。今でこそロータリーは盛んにDEIを唱っていますが、もうずっと以前から、お互いの違いを認めて会員を信頼して任せるという概念が、当たり前のこととしてクラブに存在していることを有難く思っています。10年後には私にもたくさん後輩会員ができますが、後輩たちにはこの文化を守っていきます。

最後に、私どもは6年前に星野喜忠がバナーを輩出した際にグループの皆さんの多大なるご協力をいただいたことを決して忘れてはおりません。次の10年までの間にぜひ第1グループから次のガバナーにお手を上げていただきまして、その時には大月ロータリークラブが全力でお手伝いと恩返しをさせていただきたいと願っております。

今日は渡邊がバナー補佐にこのようなお時間をいただき感謝申し上げます。以上10年後の大月RCでした。ありがとうございました。

都留ロータリークラブ

会長 小林 正道



10年後の都留ロータリークラブについてクラブの夢・計画をということですが、かなり難しいテーマだなと感じました。今日を迎えるまで毎日、何を話せばいいかと、かなり悩みましたが、会員にも協力していただきなんとか纏めましたので発表させていただきます。

まずは、会員増強です。今日現在の会員数が32名（内女性会員が2名）。また、70歳以上の会員が10名になります。10年後にはおそらく6～8人の会員が減っていくと予想されます。当然、現状維持とは考えておりませんが毎年度2～3名は新入会員を増やし、10年後には会員数40名を目標に行きたいと考えております。根拠はここ数年、若い会員も入ってきておりますので親睦を深め、新しいチャレンジを積極的にいき、魅力あるクラブ造りをしていけば、門戸も広くなり、結果は付いてくるということです。

次は奉仕活動についてですが、毎年行っている①今年度で29回目となる都留ロータリークラブ杯ジュニアサッカーフェスティバル②今年度で16回目となるフィリピンの学校や貧困な子供たちに学用品を提供する国際奉仕事業③設立からサポートしている創立50周年を迎えるガールスカウトとの合同事業④就労支援施設入所者の勤続表彰⑤護国神社灯籠、殉難の碑清掃⑥梁山公園整備事業、これらの事業は継続していきますが、今までには無かった新しい奉仕活動にもチャレンジしていきます。

例えば、①就労支援施設との共同作業②子ども食堂へのサポート③エコキャップ活動を通じてワクチン接種に協力するなどあらゆる可能性を求めて邁進していきます。

次はクラブ戦略委員会の積極的な活動になります。当クラブでもクラブ戦略委員会自体はあったのですが、具体的な活動の実績は殆どありませんでした。今年に入り、委員長及びクラブ戦略推進リーダーが動き始めクラブ戦略計画の立案に着手しました。今後は女性会員や若い世代の会員にも参画していただき、戦略計画を立案し、クラブを活性化させ、今よりも更に満足度の高いクラブへ導いていきます。以上、申し上げてきたことを実践していけば、きっと10年後には地域社会で信頼され必要とされるクラブになっているはずです。これからも、ロータリーの目的を理解し、四つのテストを遵守し、地域、社会に貢献していき、10年後には当クラブが輝かしい創立70周年を迎えることを、ここに宣言させていただきます。以上、ご清聴ありがとうございました。

河口湖ロータリークラブ

会長 三浦 雄一郎



皆様改めましてこんにちは。河口湖ロータリークラブの三浦雄一郎でございます。何卒宜しくお願ひ致します。当クラブの10年後という視点でのお話をさせていただきます。

皆さん、姥捨て山のお話はご存知でしょうか？この小説の中で「檜山（ならやま）参り」という言葉が出てきます。山に捨てられるときですね。その年齢はいつか。この小説には「70歳」とあります。要するに「口減らし」の物語です。

戦後間もない時代でした。しかし、その後日本は高度成長を遂げて、今は「人生100年」と言われています。今、日本では100歳以上の方が7万人いると言われています。わが河口湖RCも、10年後は70歳の方が続出することになると思います。非常にめでたい話だと思います。年齢の話をすれば、どうしても人口の話をしなければならないと思います。日本の人口は1940年前後、太平洋戦争が始まった頃には7,200万人でした。70年後の2010年頃に1億2,700万人まで増え、ここから下降に入っていました。さらに70年後、7,200万人ぐらいに戻るようです。

1億2,700万人が7,200万人になるのは、大体4割減るということです。4割減るというのはどんな感じか。テレビで時々コロナ禍と今の入出を比べる街の映像が出ています。あのコロナ禍の感じですね。4割減れば本当に通りが寂しくなります。

話をロータリーに戻したいと思います。河口湖RCは今年で50周年を迎えます。すごい数字です。どんな企業でも組織でも、50年、100年もつというのは大変なことです。何か必要とされる存在理由があるからこそだと思います。クラブが発足して50年、脈々とその精神が受け継がれてきたことは本当に素晴らしいことだと思います。しかしさすがに50年も続くと色々なことが時代に合わなくなってくることはやむを得ないことで、特に若者や女性の入会を積極的に勧めるためにも古いしきたりや考え方の見直しも必要となるかと考えます。

変化は、存続あるいは発展していく上で、とても重要です。それとともに、原点・理念は揺るぎないものでなくてはなりません。長く続いている組織や企業は、理念をしっかりと守りつつ、変化をしながら発展してきています。

今、我が河口湖ロータリークラブに与えられた課題は、会員全員で10年後、20年後にも生き生きと元気であるために何をしていくべきかを考え、それを実行していくことです。そのためには、変化していかなければなりません。また、未来に向けて、新たな仲間を増やしていくことも大切です。それでは河口湖RCの10年後どうやって迎えていくか。ロータリーの今後を示すのは「親睦と奉仕」だと思います。

親睦とは何か。おつき合いて仲良くなる、そこでいろんな影響を受ける、人間性に触れる、人脈もできる、そうすると人間性に膨らみが出てくるわけです。それが「ソーシャルキャピタル」です。日本語に訳せば「社会的資産」。それを社会に返す、これが「奉仕」ではないかなと思います。

河口湖RCは、50年にわたるロータリー活動に誇りを持ち、これからも社会の変化やリスクに対応しながら、生き生きとしたクラブであり続けるためにクラブビジョンを策定していきたいと考えます。会員のそれぞれの自発性と多様性を尊重し、互いに手を取り合い、自己研鑽と親睦活動や奉仕活動を通じて、次の世代と共に持続可能な社会の実現を目指していければと思います。具体的にどう現実落实到し込んでどう実行するかが、これからの課題ではないかと思っています。

先行きの不透明な時代に、持続可能なわれわれの活動とは何か。それは「親睦を通して得たソーシャルキャピタルで可能な奉仕を社会に返す。そのことによってより良い地域の将来を築く一助にしたい」ということだと思います。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

富士吉田西ロータリークラブ

会長 桑原 誠



私たちのクラブは会員41名、平均年齢61歳、来年は創立40周年を迎えるクラブです。

さて、ご承知のとおりロータリークラブは、長い歴史と伝統を持つ国際的な奉仕団体です。未来を見据え、10年後のロータリークラブがどのような姿をしているか、また、どのようにあるべきかその夢を描くことはとても意義のあることだと思います。

私はやはり10年後でも生き生きと元気で活力あるロータリーであり続けたいと願っております。そのためには何を考え、何を実行していくべきなのでしょう。渡邊隆ガバナー補佐は、以前、会長幹事会の挨拶の中で「不易流行」という言葉をおっしゃっていました。不易（変化しないもの）と流行（変化するもの）の両方を意味する表現で、物事の基礎や本質はいつまでも変わらないものの中に、新しい変化を取り入れるという意味だと理解しております。ロータリークラブに置き換えて考えてみると、ロータリーの本質というものはいつまでも変わらないが、その一方で新しい変化を取り入れることは必要であると言えます。また、将来に向けて、新たな仲間を増やしていくことも不可欠です。ロータリーの基礎・本質とは何でしょうか。それは「ロータリーの目的」はもちろんですが、「四つのテスト」と「中核的価値観」だと思います。それ以外のものは、時代や状況に応じて変えていっても良いのではないかと考えます。では、ロータリーに必要な変化とは何でしょうか。それは、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な未来を築くために必要な変化です。そのためには、より多くの人たちと共に、インパクトのある奉仕を行う必要があります。それを実現していくためには、会員一人ひとりが変化の必要性に気づき、変化を生み出す意欲を持ち、何を変えるのかを考え、実行していかなければなりません。自分とは違った価値観を受け入れ、年齢、性別、職業を問わず、多様なメンバーが参加できる環境を整え包容力のある文化を築くことが大切です。そして会員がそのような気持ちを大切に、変化することによって、クラブ自体が変化をし、多様性・公平さ・インクルージョンが実現されていくことでしょう。そのように私たち自身が輝くことが、クラブが、そしてロータリーが未来に向けて前進していくことではないかと思っています。ロータリークラブは、地域社会にとってかけがえのない大切な存在であります。10年後、私たち富士吉田西ロータリークラブは創立から約50年を迎える時期になりますが、50年たっても活力あるクラブとして存在し続け、地域社会にとってかけがえのない存在であり続けたいと願っています。

山中湖ロータリークラブ

会長 羽田 廣樹



山中湖ロータリークラブです。

私どものクラブの紹介からさせていただきます。

山中湖ロータリーは創立31年を迎え、会員数18名のクラブです。最高年齢91歳から若手44歳で、平均年齢は74歳を超えています。もともと初代から平均年齢の高いクラブではありました。

会員の職業分類を見ますと、旅館・民宿業を営まれる会員は18名中6名で、観光が主たる業種となっています。

山中湖村の世帯数は2646世帯 人口5802人です。

別荘は約3490軒です。世帯数をはるかに上回ります。

会員増強は、10年後の山中湖ロータリーには欠かせない課題です。

現在18名の会員ですが、人口割りで考えますと、問題はない数とはおもいますが、それでも活性化するには、20名位の会員で動ければと思います。

山中湖は移住者の方や、夏には山中湖に長期滞在される方などが多くいらっしゃいます。そのような中で、既成概念にとらわれず、新しい革新的な会員を募っていきたくと思います。

山中湖RCの今後10年後の夢ですが、地域の活性化をはかる事が夢です。地域の活性化なくして山中湖ロータリーを語る事ができないとも思います。

地域の活性化としまして、奉仕プロジェクト委員会で、企画運営をしている事業（山中湖歩こう会）についてお話いたします。

今年度22回目をむかえようとしているこの企画ですが、秋の山中湖を歩き、自然を大切にする事の大切さを感じ、山中湖の自然の豊かさをあらためて再認識し、広めてもらうため企画されたものです。

この奉仕プロジェクトを、より効果的に定義、分析をする事で価値

観を共有し、親睦を深め、誠実さを持ち、多様な視点から希望を生み出していけるのではないかと思います。21回目の参加者は50名程でしたが、強化し、永続的な変化を生み出すことが出来る、新しい視点と新しいアイデアを注入して、地域社会にさらに貢献できるよう取り組み、10年後この企画で、数百人規模で価値観を共有できたら、素晴らしい事だと思いますし、山中湖コミュニティへの包括的、積極的に思いやりのある、野心的なクラブになるでしょう。

まずは、企画の測定と分析に注力をして、大きな広まりとなり、意味の深いものになることが大切だと思います。

地域とロータリーが密接につながる事にもなります。

これが私の10年後のロータリーの夢となります。

甲府ロータリークラブ

会長 山口 高明



当クラブでは現在10年後に向けての心配事がございます。それを解消し明るい未来を手に入れることが「夢」であります。その心配事とは、会員数が減少傾向にあることです。

今期、期首105名でスタート致しましたが、今日現在の会員数は、103名です。一応2月中には1名増員して104名になる予定です。なお会員の40%前後を転勤族である県外大手企業の支店長さん方や、県内の大手企業の管理職の方が占めております。広い世界を相手に、また、様々な地域を行き来しながら大きな組織で活躍をされておられる方々の存在は、多様性という意味でも、会員相互の見識を広め、互いに刺激を与え合う、活発なクラブの活動の原動力にもなっております。また、県内外大手企業の支店長・管理職の方は、転勤で退会された後も必ず後任者を、できるだけ遅滞なく、入会させていただいており、会員数安定の一翼も担っていただいております。加えて、会員の年齢構成につきましても、常に働き盛りの会員を提供して頂き、バランスの良い会員構成の大きな助けになっております。大変ありがたいことであります。

しかしながら最近では、新たな地元会員の入会者が少なく、全体の会員数が減少し、地元会員の年齢層が上昇してきております。これから先、人口の減少や社会全体の高齢化を考えますと、さらに厳しい状況になっていくことが想像され、10年後、当クラブの会員数はどうなっているのか、不安を覚えます。会員数が全てではありませんが、今現在行っている事業の規模を続けて行くには、最低でも現在の会員数を維持していかなければならないのは自明の理であります。

R Iのアーチェック会長は、奉仕や親睦に興味のある地域社会の人々に対して、「シンプリーイレジスタブル」な魅力、つまりあらがうことの出来ない魅力をクラブが備えることが必要だといいます。クラブは、ポリオに代表されるようなロータリーの取り組みや活動を内外に報知・説明することは勿論、参加者の基盤を広げるため、偏らないで仲間を増やしていくこと、つまり多様性に適応していくことも必要だとも。そしてクラブのメンバーがあれもやりたい・これもやりたいと言うものを吸い上げ、やってみたらどうだったのかと意見を聞きながら、会員や地域社会へ適応力を高めて行くことが大切であり、そうすることが会員同士の積極的な関わりを促していく。それを継続していけば、クラブの魅力が高まると語っています。また、アーチェック会長は、継続的にクラブの会員や地域社会への適応力を高めていく方法について、それは、本年度をトライアル期間として始まり、昨年10月21日からクラブセントラルに力入出来るようになった、3イヤーズゴールズを活用して行動計画を立案管理していくことであるとしています。

従って、末永くクラブが活発な活動が出来るため、次年度からの3イヤーズゴールズの本格的なスタートに向け、諸先輩方のご指導も賜りながら、担当委員会には会長経験者のみならず幅広い年代の会員を委員に迎え、広く会員にアンケートを採りながら、計画を立案管理していくことを、次年度会長並びに役員・理事の方々と協議して参りたく存じます。

甲府ロータリークラブの10年後への夢は、単純です。会員数が今以上の人数で、今以上の活発な活動を行う、多様性を遵守した、シンプリーイレジスタブルな魅力が溢れるクラブでありたいと言うことです。その為には、クラブ会員の力だけでは足りず、第一グループの皆様のご協力も必要になるかと存じます。その際にはどうぞ、ご協力の程、よろしく御願い申し上げます。

以上になります。ありがとうございました。

IMへの途

2024-2025年度ガバナー補佐 活動報告

2024-25年

ガバナー補佐訪問

◎ガバナー公式訪問の同行

7月9日(火)	河口湖ロータリークラブ	富士レークホテル
7月11日(木)	都留ロータリークラブ	割烹ふるや
◎ 7月22日(月)	甲府ロータリークラブ	古名屋ホテル
◎ 7月24日(水)	富士吉田ロータリークラブ	ホテル鐘山苑
7月29日(月)	山中湖ロータリークラブ	ホテルマウント富士
8月9日(金)	富士吉田西ロータリークラブ	ハイランドリゾートホテル&スパ
◎ 8月19日(月)	大月ロータリークラブ	濱野屋
◎ 9月13日(金)	富士吉田西ロータリークラブ	ハイランドリゾートホテル&スパ
◎ 9月30日(月)	山中湖ロータリークラブ	ホテルマウント富士
◎ 10月3日(木)	都留ロータリークラブ	割烹ふるや
10月8日(火)	大月ロータリークラブ	濱野屋
◎ 10月15日(火)	河口湖ロータリークラブ	富士レークホテル
10月21日(月)	甲府ロータリークラブ	古名屋ホテル
10月23日(水)	富士吉田ロータリークラブ	ホテル鐘山苑
11月25日(月)	山中湖ロータリークラブ	ホテルマウント富士
11月26日(火)	大月ロータリークラブ	濱野屋
12月3日(火)	河口湖ロータリークラブ	ビジネスホテル登り坂
12月4日(水)	富士吉田ロータリークラブ	ハイランドリゾートホテル&スパ
12月5日(木)	都留ロータリークラブ	割烹ふるや
12月6日(金)	富士吉田西ロータリークラブ	ハイランドリゾートホテル&スパ
12月9日(月)	甲府ロータリークラブ	古名屋ホテル
3月3日(月)	山中湖ロータリークラブ	ホテルマウント富士
3月4日(火)	河口湖ロータリークラブ	富士レークホテル
3月5日(水)	富士吉田ロータリークラブ	ホテル鐘山苑
3月6日(木)	都留ロータリークラブ	割烹ふるや
3月7日(金)	富士吉田西ロータリークラブ	ハイランドリゾートホテル&スパ
3月11日(火)	大月ロータリークラブ	濱野屋
3月17日(月)	甲府ロータリークラブ	古名屋ホテル

2024-25年

山梨第一グループ会長幹事会

第1回	4月8日(月)	みな金
第2回	6月14日(金)	割烹 笹一
第3回	9月9日(月)	みな金
第4回	12月24日(火)	メールによる持ち回り開催
第5回	4月14日(月)	浜っ子本店

合同奉仕事業

2024.8.3 富士山清掃

ガバナー補佐
ゴルフコンペ

2024.10.11 シャトレゼ甲斐ヒルズCC



IM実行特別委員会組織図

ガバナー補佐 渡邊 隆

本 会

会 長	山口 高明
副 会 長	田中 謙一
幹 事	中込 裕昭
幹 事	杉本 啓一
幹 事	淡路 一浩
幹 事	山内 章次
幹 事	山本 健志
幹 事	渡邊 賢治
幹 事	加藤 吉一
幹 事	保坂 保美

IM実行特別委員会

IM実行特別委員長	宮内 俊彦
副委員長	小林 登士
実行委員	長田 眞
実行委員	進藤 哲雄
実行委員	内藤 民部
実行委員	内藤 久夫
実行委員	羽田 隆行
実行委員	丸茂 正樹
実行委員	高村 隆義
実行委員	西川 一徳

アドバイザー

PG	高野 孫左エ門
PG	野口 英一
監事	金丸 康信

PR・動員部会	誘導・会場整備部会	受付部会	式典部会	基調講演部会	祝賀部会	記録・写真部会	広報紙・プログラム・報告書
◎丸茂 正樹 ◎羽田 隆行 ◎高村 隆義 ◇大川 正勝 (実行委員会)	◎土橋 正洋 ◎飯島 禎典 ◎中込 弘 ◎丸山 小池 ◎中村 国男 ◎木田 茂樹 ◎杉山 成明 ◎反田 克彦 ◎松村 昌樹 ◎有富 幸子 ◎平嶋 育造 ◎角田 武一 ◎牧野 豊 ◎宮田 雅夫 ◎岡田 哲也 ◎平田 慎一 ◎堤 明伸 ◎須藤 宇史 ◎渡瀬 秀樹	◎羽田 隆行 ◎大森 泉章 ◎清水 元武 ◎田上 武 ◎鈴木 裕一郎 ◎西尾 健司 ◎渡邊 幸雄 ◎雨宮 哲也 ◎上原 勇七 ◎宮崎 順子 ◎入倉 修晃 ◎五味 邦彦 ◎浜野 冬馬 ◎井内 知弥 ◎丸山 知弥 (会長) (副会長) (幹事) (エレクト) (直前)	◎進藤 哲雄 ◎西川 一徳 ◎後藤 光利 (渡邊 賢治) ◎清水 修一 ◎古屋 俊仁 ◎中丸 眞治 ◎土屋 和巳 ◎高村 昇二 ◎笹本 森雄 ◎室井 聡一郎	◎内藤 久夫 ◎高村 隆義 ◎上田 文彦 (宮内 健志) ◎山本 孝夫 ◎秋山 仁博 ◎佐藤 正幸 ◎田中 照俊 ◎飯嶋 均 ◎三木 輝美	◎長田 眞 ◎坂本 哲啓 ◎泉脇 康展 ◎山内 章次 ◎山本 貴雄 ◎雨宮 弘輝 ◎宮城 澤 ◎米山 忠宏 ◎國見 善行 ◎三神 治彦 ◎有田 英智 ◎佐川 一郎 ◎五十嵐 豊 ◎清水 弘一	◎山寺 戦治 ◎高野 泰斗 ◎川上 明彦 ◎柴山 聡 ◎藤井 阿生 ◎保坂 勝美 ◎保坂 東吾 ◎杉原 杉郎 ◎藤原 和昭	◎内藤 民部 ◎依田 訓彦 ◎鶴田 義典 ◎松村 秀彦 ◎佐々木 宏明 ◎岸本 良三 ◎梅本 実俊 ◎細田 俊

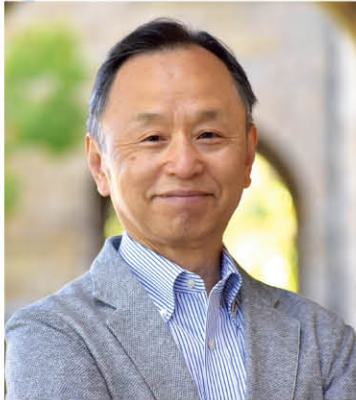
◎部会長
◎副部会長
◇幹事



基調講演 「日本の安全保障と防衛大学校 ～10年後の世界」

こくぶん りょうせい
國分 良成 氏

前防衛大学校校長 慶應義塾大学名誉教授



1981年慶應義塾大学大学院博士課程修了後、慶應義塾大学法学部専任講師、85年助教授、92年教授、99年から07年まで同大学東アジア研究所長、07年から11年まで法学部長。12年4月より21年3月まで防衛大学校校長。現在は、慶應義塾大学名誉教授、防衛大学校名誉教授。この間、日本国際政治学会理事長、アジア政経学会理事長、日本現代中国学会理事、日本比較政治学会理事、新日中友好21世紀委員会秘書長（外務省）などを歴任。また、ハーバード大学、ミシガン大学、復旦大学、北京大学、台湾大学、スタンフォード大学の客員研究員を歴任。専門は中国政治・外交、東アジア国際関係。法学博士。

その他の主な現職に、日本防衛学会会長、富士通フューチャースタディーズ・センター顧問、財務省中国研究会座長、公益社団法人隊友会理事、公益財団法人日本経済研究センターアジア研究会座長、公益財団法人三谷育英会理事、アークヒルズクラブ理事、公益財団法人日本サッカー協会アドバイザリーボード・メンバー、公益社団法人アジア調査会会長（毎日新聞社顧問、本年6月より）、公益社団法人安全保障懇話会会長（本年6月より）など。

主要著書に『防衛大学校』（中央公論新社、2022年）、『中国政治からみた日中関係』（岩波書店、2017年度榎山純三賞）、『現代中国の政治と官僚制』（慶應義塾大学出版会、2004年度サントリー学芸賞）、『アジア時代の検証 中国の視点から』（朝日選書、1997年度アジア太平洋賞特別賞）、『中華人民共和国』（ちくま書房、1999年）、Japan-China Relations through the Lens of Chinese Politics (JPIC, 2021) など。編著に『日中関係史』（有斐閣、2013）、『中国の問題群1 党と国家』（岩波書店、2009）、『現代東アジア』（慶應義塾大学出版会、2009）、『日本の外交第4巻 対外政策地域編』（岩波書店、2013）、『中国ファクター アジア・ドミノの政治経済分析』（日本経済新聞出版、近刊）など。

日本の安全保障と防衛大学校

前防衛大学校校長・慶應義塾大学名誉教授

國分 良成

国際安全保障の現実とトランプ政権誕生

- ・ 自然災害、原発、エネルギー、感染症、経済安全保障、政治リスク、テロ……国際安全保障
- ・ 国際安全保障：外交＋安全保障 ⇒ 対話・交渉＋抑止 ⇒ 「有事」に備えた「平時」こそ重要
- ・ 終わらないウクライナ戦争、複雑な中東紛争 ⇒ トランプ政権の誕生でどうなる
- ・ トランプ政権の動向 ⇒ 経済重視＋同盟軽視 ⇒ 人権・民主軽視 ⇒ America First!
- ・ 東アジア安全保障 ⇒ 戦後最大と言われる危機的状況
- ・ 2大テーマ：北朝鮮（大量破壊兵器・ミサイル開発等）、中国（南シナ海、東シナ海、台湾問題）
- ・ トランプ政権の対北朝鮮政策？ ⇒ 核・ミサイル容認？ ⇒ 不透明な韓国政治 ⇒ 核保有？
- ・ 米中は対立かバーゲニングか ⇒ 経済と政治の間 ⇒ どうなる台湾問題？

米中関係と台湾問題

- ・ 米中冷戦と米中対立：米中冷戦＝長い平和？ ⇒ 核抑止、米中対立＝核抑止＝経済抑止？ ⇒ TikTok?
- ・ 米中対立の背景：①パワー ②イデオロギー ③経済・技術 ⇒ 従来は台湾問題に集約
- ・ 「台湾有事」議論：2021年米軍インド太平洋軍司令官発言 ⇒ ウクライナ戦争を契機 ⇒ 危機の程度？
- ・ 米国事情：対中engagement失敗 ⇒ 対中失望・脅威感 ⇒ トランプ大統領の出方次第
対台湾政策：基本は現状維持 ⇒ 「有事」の際の介入？ ⇒ TSMC半導体への対応？
- ・ 中国事情：米国の「和平演変」拒否 ⇒ グローバルサウスへ接近 ⇒ 国内経済停滞 ⇒ 習近平体制の動揺
対台湾政策：平和統一原則 ⇒ 武力使用の条件（「台湾独立」「国家承認」） ⇒ 習近平次第
- ・ 台湾事情：台湾は一貫して「有事」 ⇒ 「現状維持」支持多数 ⇒ 「有事」の備えと対米・日関係強化
台湾総統選挙：頼清徳（民進党）勝利 ⇒ 柯文哲（民衆党）失墜＋国民党の復権

日本の立場

- ・ 安倍政権～岸田政権で安保政策の革命的変化：⇒ ロシアのウクライナ侵攻 ⇒ 「台湾有事」
- ・ 米国の国内事情とアジア太平洋地域防衛の限界 ⇒ 日本の自助努力の必要
- ・ 安倍政権：国家安全保障局（2014年）、集団的自衛権（2015年）、「自由で開かれたインド太平洋」
- ・ 岸田政権：安保3文書（2022年12月）可決 ⇒ 防衛費増強（GDP2%へ）＋「反撃能力」
- ・ 国民の大きな反対なしに成立 ⇒ 「安全はタダではない」意識ようやく ⇒ 普通の国家の抑止力？
- ・ 不透明な政治の行方 ⇒ 石破政権の対米・対中政策？

多様化する自衛隊の役割と課題

- ① 拡大する（多すぎる）自衛隊の役割
 - ・ 国防、国際貢献、自然災害対処・復興、反テロ、感染症（人間・動物……）
- ② 安保3文書の実現とその課題
 - ・ 財源不足 ＋ 人材不足 ＋ 未知の反撃能力 ＋ 弱いサイバー・AI……
- ③ 防衛装備と防衛産業
 - ・ 政治や企業本位からUSER重視へ、国産化の課題、「防衛産業」イメージ
- ④ インテリジェンス：オシント、シグイント、ヒューミッド
 - ・ 法的・道義的制約、「情報」と「政策」、監督官庁
- ⑤ 自衛隊の地位
 - ・ 憲法9条問題、エッセンシャルワーカー？、日本的シビリアンコントロール
- ⑥ 待遇改善へ
 - ・ ワークライフバランス、コンプライアンス、使命感、賞金、福利厚生、多様な職種、女性活躍……

防衛大学校史

- ・ 防大の三恩人：吉田茂、小泉信三、横智雄
- ・ 横初代校長の功績（民主主義、科学的思考、紳士な武人）
- ・ 横初代校長と猪木正道第3代学長
- ・ 猪木先生と石川忠雄元慶應義塾長
- ・ 石川忠雄と松本三郎第6代学長
- ・ 五百旗頭真第8代学長との深い長い縁

防大校長の仕事

- ・ 国家公務員、指定職7号俸(次官は8号俸、陸海空幕僚長と同格)
- ・ 入校式、開校記念祭、卒業式
- ・ 教官、事務官、自衛官(陸・海・空)⇒ 明確な目的 ⇒「すべては学生のために」(1学年480名)
- ・ 問題対処(いじめ事案等、山岳事故、疾病、任官辞退)⇒「新たな高みプロジェクト」
- ・ 教育:「教養」「国際化」「英語」⇒ 教養教育センター、国際交流センター ⇒ 留学生6%
- ・ 訓練: 4年間で約1000時間の実践訓練・基地研修
- ・ 研究: 教官の学術水準向上⇒ 人事、科研費⇒ グローバルセキュリティセンター
- ・ 訓育:「学生間指導の在り方ー世界一の士官学校を目指して」⇒ コンプライアンス
- ・ 学生舎生活: 試行錯誤の大隊編成⇒ 年度最優秀大隊(11種競技)
- ・ 遠泳、カッター、棒倒し、水泳、演劇、合唱、断郊、持久走、英語、ビブリオ、行進、体力

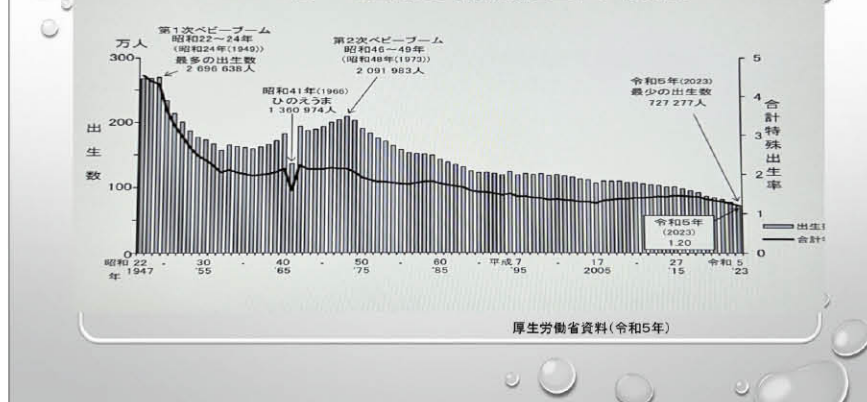
⑦

防大生の目標

- ① 幹部自衛官としての自覚
 - ・ 建学の精神:「廉恥」「真勇」「礼節」
 - ・ 「知力」、「気力」、「体力」 + 「使命感」=小原台スピリッツ
- ② 他者を理解するよき社会人
 - ・ 「真の紳士淑女にして、真の武人」⇒ 女子採用拡大、現在1学年100/480
 - ・ 決断力、責任感、他者への配慮
- ③ 真の国際人 ⇒「世界一の士官学校」
 - ・ 不透明な地域安全保障と自衛隊の役割
 - ・ 内向き日本からの脱却:国際感覚、平衡感覚、英語力

⑧

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



⑨

むすびー若者への提言

- ・ 急激な少子化と高齢化に備える ⇒時代の感性・感覚に敏感に ⇒不可避な世代交代
- ・ 家庭・学校教育の創造的革新 ⇒画一化・同調圧力の回避 ⇒個性・成人力の育み
- ・ 規律とルールの中の自由と責任 ⇒法・政治・国際関係への関心・意識拡大
- ・ 人間への関心と対話 ⇒他者の想いへの想像力 ⇒「目的」の重要性
- ・ 最期は個々の人生観と突破力 ⇒人生において一度は死に物狂いで一定の目標に挑戦する

⑩

ご清聴ありがとうございました！

國分 良成
 前防衛大学校長(名誉教授)
 慶應義塾大学名誉教授
 日本防衛学会会長
 アジア調査会会長
 安全保障懇話会会長
 富士通フューチャースタディズ・センター顧問

⑪

懇親会 歌唱パフォーマンス

山梨県立
 甲府第一高等学校
 ア・カペラ部

曲 目

1. 甲府第一高校校歌
2. ホールニューワールド
3. 残酷な天使のテーゼ
4. ラブソディ・イン・チカマツ
5. 蛍の光



IMの写真は右の甲府RCホームページからご覧いただけます▶



1年間を振り返って

国際ロータリー第2620地区
2024～2025年度ガバナー

小泉 久司（甲府西RC）

山梨第1グループIMに参加して

2月1日にベルクラシック甲府で開催された「山梨第1グループIM」にお招きいただき、誠にありがとうございました。

渡邊隆ガバナー補佐のご指揮のもとIM実行委員会の皆様のご尽力により、内容の充実した素晴らしいIMでした。

渡邊ガバナー補佐が「10年後のロータリーを想像してみませんか」と問いかけ、グループ内7RCの会長がそれぞれ計画や報告を語られる企画がございましたが、まさに3-Year Rolling Goalsにも通じるものであり、大変興味深く拝聴させていただきました。

また、慶応義塾大学名誉教授で元防衛大学校校長の國分良成様の基調講演もあり、参加した皆様とともに有意義な時間を過ごしました。

7クラブの会員が一堂に会し、交流を深めて親睦の輪を広げました。今後、さらなる大きな輪に発展し、多くの“THE MAGIC OF ROTARY”を実現していかれることを祈念いたします。

山梨第1グループ
ガバナー補佐

渡邊 隆

山梨第一グループの合同奉仕事業は恒例になっています富士山清掃活動でした。2013年6月22日ユネスコ世界文化遺産に登録され、信仰の対象と芸術の源泉として日本人の自然観や文化観も国際的に認められました。

そして、五合目周辺には広大な駐車場、多くの店舗が並び、インバウンドの海外旅行者、観光見物、登山者などにより、多くの経済効果が生み出されています。

大勢の観光客の地域ではゴミもほとんど見受けられませんが、山麓では不法投棄された場所もあります。

富士山は、美しい自然景観と豊かな生態系を持つ一方で、さまざまな環境問題を抱えています。

鹿の食害、森林限界の上昇、永久凍土の減少、遊水地の減少や水質悪化など早急な解決策が求められています。

しかし、山梨県で検討されている富士山トラムによって、富士山とリニア新駅を結ぶ新たな壮大な交通システムも考えられています。

山梨第一グループの各クラブ（富士吉田RC、大月RC、都留RC、河口湖RC、富士吉田西RC、山中湖RC、甲府RC）は協力しながら、環境美化活動を拡大し、ロータリーは10年後、20年後の富士山世界文化遺産維持活動の中心に存在する団体であるべきと想像します。

IM実行特別委員会委員長

雨宮 俊彦

この1年を振り返って

渡邊ガバナー補佐より重責であるIM実行委員長をお受けして、私としては「未知の郡内の6クラブ」をガバナー補佐に同行して訪問いたしました。

また、会長幹事会を通しての各クラブ会長・幹事との交流も含め、それぞれに歴史と文化のある各クラブの例会への訪問は、「新たな刺激」の連続で、有意義な時間でした。

第1グループの8/3の合同奉仕事業、10/11のガバナー補佐主催ゴルフコンペ等を通じた各クラブとの関係強化の集大成の上にIMの開催があったと思います。

渡邊ガバナー補佐の下、特にこの1年間で構築した絆を大切に、第1グループの一員としての甲府ロータリークラブの活動を継続していくことが今後とも肝要であると思います。

山梨第1グループ
ガバナー補佐事務局長

羽田 隆行

一年を振り返って

この一年、山梨第一グループの各クラブ会長、幹事をはじめ会員の皆様におかれましては、グループ内の活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

各クラブを渡邊隆ガバナー補佐の御供として訪問させていただき、各クラブの地域性をいかした特徴や各クラブの文化を知ることができ大いに学ばせていただきました。

今後のロータリークラブは、若手会員の育成と参加促進、多様性の受容が鍵となると考えます。

各クラブの10年後、その先へと未来思考によるクラブ運営と山梨第一グループとしての活動、地域社会との連携を深め、奉仕活動を通じてロータリーの理念を着実に実践してまいりたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

山梨第1グループ
ガバナー補佐事務局

丸茂 正樹

1年間の感想

山梨第1グループの各クラブ会長・幹事の皆様と1年間に渡りご一緒させていただきまして、誠にありがとうございました。

私がクラブ幹事を務めた年度はコロナ禍と重なったため、グループの活動は制限されていました。

そのため今年度の活動を通じて、第1グループの活動を通年で経験できたことは、とても貴重な機会となりました。

また都留ロータリークラブ様が創立60周年記念式典の前日に台湾の姉妹クラブと開催された前夜祭に夫婦で参加させていただいたことは、とても楽しい思い出です。

ガバナー補佐のクラブ訪問に同行した際には、各クラブ様の様々な例会の開催方法を知ることができました。今後の活動に活かしていきたいと思います。

事務局として至らぬ点多々あったかと思いますが、ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。